

2015年5月入職

まつもとあやこ
松本亜矢子

輝いている姿を、子どもたちに見せたかった

この仕事は、他の何物にも代えられない

出産を機に看護師を退いた後、専業主婦としてボランティアやPTAなどの活動に取り組んでいたのですが、自分の中に埋まり切らない穴がぼっかりと空いていました。何をしても看護師の頃のような高揚感は湧かず、どこか物足りない生活を送る毎日。そんなとき、善仁会のHPを見る機会があったのですが、キラキラと輝いているスタッフの姿に目が釘付けになりました。おそらく、子どもたちの姿にずっと触発されていたのでしょう。子どもたちは吹奏楽と野球に打ち込んでいて、その姿を日々見ているうちに自分も頑張りたいという気持ちが心に芽生えていたのです。私ももう一度輝きたい、やりがいを持って仕事に打ち込んでいる姿を子どもたちに見てほしい。そんな思いを抱き、看護師としてのキャリアを再びスタートさせました。

今回、候補生に選ばれたことは、「思いやりとは何か」を改めて考えるいい機会になったと思います。子どもたちにも「思いやりって何だと思う？」と聞いてみたところ、吹奏楽部に入っている子からは「まわりの音を聴きながら一緒に楽器をかなでること」、野球部に入っている子からは「相手の胸にボールを投げること」という答えが返ってきました。大人の私では思いつかない視点からの答えで、思わず考えさせられました。この制度がなければ、子どもたちに「思いやりとは何か」を聞くことはなかったかもしれません。

愛こそが、私にとっての思いやり



子どもたちのことは、患者さまも孫のように気にかけてくれています。この間、野球をしている子の試合レポートが写真付きで新聞に載ったのですが、その記事を探してきてくれたのが、昔野球をしていた患者さま。私も喜んだのですが、私以上に子どもが喜んでいました。家族以外の人から応援してもらっていることがよほど嬉しかったのでしょう。その患者さまに向けて「次の試合でも頑張ってヒットを打ちます」という手紙を書き、それをもらった患者さまも非常に喜んでいました。

こういった温かいつながりが生まれるのは、多くの人たちと出会えるこの仕事ならではのと思っています。人生の大切な財産となるような、仕事のやりがい以上のものを日々与えてもらっているような気がしてなりません。この広い世界で素敵な人たちにめぐり会えていることには感謝しかありません。だからこそ、感謝に対して愛で応えたい。私にとっての思いやりとは、出会えた人たちに愛を持って接すること。表現こそ違うものの、伝えたい内容は子どもたちの返答と同じだと思っています。



関わる全ての方々への
感謝の気持ちを大切に
心温まる看護をめざします

松本亜矢子